

再評価結果（令和6年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・技術課

担当課長名：高松 諭

事業名	道央圏連絡道路（一般国道337号） 長沼南幌道路		事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 北海道開発局
起終点	自：北海道夕張郡長沼町東10線 至：北海道空知郡南幌町南15線				延長	14.6km
事業概要	道央圏連絡道路は、千歳市を起点とし、小樽市に至る高規格道路である。 長沼南幌道路は、中樹林道路、泉郷道路と接続し、高速ネットワークの拡充による札幌圏の連絡機能の強化を図り、地域間交流の活性化及び拠点空港新千歳空港、国際拠点港湾苫小牧港等への物流効率化の支援を目的とした長沼町東10線から南幌町南15線に至る延長14.6kmの事業である。					
H23年度事業化	—		H25年度用地補償着手	H29年度工事着手		
全体事業費	約380億円		事業進捗率 (令和5年3月末時点)	65%	供用済延長	0.0km
計画交通量	11,000～16,300台/日					
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 1.5 (残事業) 2.7	総費用 (残事業)/(事業全体) 237/428億円 (事業費：163/354億円) (維持管理費：74/74億円) (更新費：0/0億円)	総便益 (残事業)/(事業全体) 642/642億円 走行時間短縮便益：486/486億円 走行経費減少便益：128/128億円 交通事故減少便益：28/28億円	基準年 令和5年		
感度分析の結果	事業全体及び残事業について感度分析を実施 【事業全体】交通量：B/C=1.3～1.7（交通量±10%） 事業費：B/C=1.4～1.6（事業費±10%） 事業期間：B/C=1.5～1.6（事業期間±20%） 【残事業】交通量：B/C=2.4～3.0（交通量±10%） 事業費：B/C=2.5～2.9（事業費±10%） 事業期間：B/C=2.7～2.8（事業期間±20%）					
事業の効果等	事業の必要性及び効果 ① 物流拠点の利便性向上 ・石狩湾新港や苫小牧港間への所要時間が短縮され、石油製品、農水産品等の物流輸送の利便性向上が期待される。 ② 農産品の流通利便性向上 ・農産品の道外出荷を担う新千歳空港や苫小牧港等の物流拠点への速達性及び安定性の高い輸送ルートが確保され、農産品の流通利便性向上が期待される。 ③ 拠点空港新千歳空港への利便性向上 ・円滑で定時性の高いルートが確保され、道北方面の沿線市町村から新千歳空港への利便性向上が期待される。 ④ 道路交通の安全性向上 ・大型車を含む並行路線を通過する交通の転換が見込まれ、周辺住民の道路交通の安全性向上が期待される。 ⑤ 異常気象時及び冬期間の安全性向上 ・冬期視程障害の緩和や、冠水リスクが低減することで、安全性向上が期待される。 ⑥ 企業立地の促進 ・工業団地と新千歳空港や石狩湾新港などの物流拠点へのアクセス性が向上し、企業立地の促進や新たな雇用の創出など、地域活性化が期待される。					
関係する地方公共団体等の意見	地域から頂いた主な意見等： 江別市など5市3町の首長等で構成される「道央圏連絡道路整備促進期成会」等から整備促進の要望を受けている。					

知事の意見：

「道央圏連絡道路（一般国道337号）長沼南幌道路」事業を「継続」とした「対応方針（原案）」案について、異議はありません。

当該事業は、中樹林道路、泉郷道路と接続し、高速ネットワークの拡充による札幌圏の連絡機能の強化を図り、地域間交流の活性化及び、拠点空港新千歳空港、国際拠点港湾苫小牧港への物流効率化等を支援するとともに、道路交通の安全性向上や企業立地の促進が期待されるなど、経済・社会活動の活性化や道民の安全・安心なくらしの確保に寄与することから、早期供用を図るようお願いいたします。

なお、事業の実施にあたっては、平成21年1月地域高規格道路 道央圏連絡道路（長沼町～江別市間）に係る環境影響評価書に記載の「準備書についての知事意見及びそれに対する事業者の見解」を遵守するとともに、より一層の徹底したコスト縮減を図り、これまで以上に効率的・効果的な執行に努めるようお願いいたします。

事業評価監視委員会の意見

当委員会に提出された再評価原案準備書の対応方針については、北海道開発局案を妥当と判断する。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・平成23年10月 北海道横断自動車道 夕張IC～占冠IC開通
- ・平成24年12月 石狩湾新港石狩LNG基地稼働
- ・平成25年 8月 北海道縦貫自動車道 新千歳空港IC開通
- ・平成28年 1月 道央圏連絡道路 当別バイパス 全線開通
- ・平成29年 9月 北欧の風道の駅とうべつオープン
- ・平成30年12月 新千歳空港国際線ターミナル前エプロン拡張部暫定供用
- ・平成31年 2月 石狩湾新港発電所 営業開始
- ・令和 2年 3月 道央圏連絡道路 泉郷道路 全線開通
- ・令和 2年12月 北海道縦貫自動車道 苫小牧中央IC開通
- ・令和 5年 3月 北海道ボールパークFビレッジ開業

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成29年度に工事着手して、用地進捗率93%、事業進捗率65%となっている。

（令和5年3月末時点）

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

軟弱地盤対策の見直し、不良土対策の追加等。
引き続き、早期開通に向けて事業を進める。

施設の構造や工法の変更等

軟弱地盤対策の見直し、不良土対策の追加等。
引き続きコスト縮減に取り組んでいく。

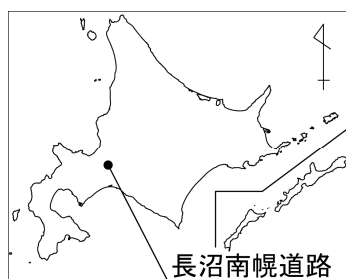
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

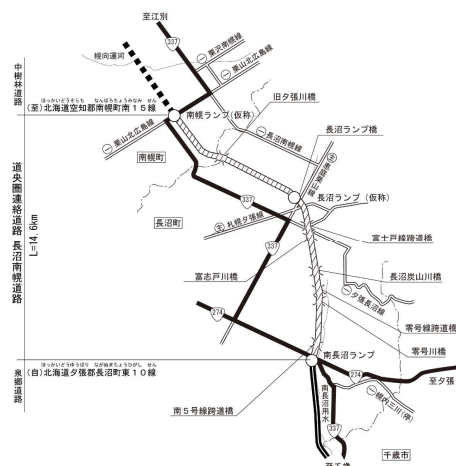
事業の必要性・重要性に変化はなく、費用対効果等の投資効果も確保されているため。

事業概要図



長沼南幌道路

凡 例	
	供 用 中
	事 業 中
	再 評 価 区 間



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。